

平成28年度 第2回学校協議会議事録概要

日時 平成28年11月28日(月) 14:00~15:50

場所 大阪府立堺工科高等学校 会議室

1.開会のあいさつ(校長)

- ・来年度の募集定員は、工科高校数校で学級減がある中、本校は平成28年度と同じであった。
- ・府立工科高校のアピールのためのパンフレットの配布や動画の配信を行っている。
- ・10月の学校見学会は、参加中学校数、生徒・保護者参加数とも近年で最多であった。
- ・後ほど学校教育自己診断や授業アンケートの報告を行い、それに基づいて協議を行っていただきたい。

2.本校の状況

(1)生徒指導<別紙資料>

- ・生徒の状況は年々良くなってきている。原因として人の話を聴く心の余裕が出てきたのではないかとされる。
- ・遅刻件数は1年生担任団の指導強化もあり、大幅に減少した。
- ・懲戒件数は半減した。
- ・途中入室は、ポイント指導の対象とした結果、大幅減少した。

(2)進路指導<別紙資料>

- ・学校斡旋就職は、延べ170社216名が受験して、現時点で内定者173名。公務員は結果待ちを含む3名、縁故等で4名となっている。
- ・進学は大学14名、専門学校等で28名である。今後、人数が変わる可能性はある。

(3)平成29年度使用教科書採択について<別紙資料>

- ・採択に至るプロセスを説明。採択教科書は別紙資料通り。

(4)授業アンケートについて<別紙資料>

- ・昨年度より大幅向上した。特に1、3年が顕著だった。
- ・要因として、生徒が落ち着き、授業規律ができてきていることが考えられる。また、朝学の充実、生徒会による毎朝のあいさつ運動も影響しているのではないかと考えられる。学校教育自己診断のデータでも裏付けられる。

(5)生徒の資格検定取得実績<別紙資料>

- ・年度末には昨年度より300名程度受検者数が増加するのではないかと。
- ・3年目を迎え、昼休みに資格支援センターに生徒がよく来るようになった。
- ・資格支援センターとしては実績を積み重ねていっているが、資格試験をドロップアウトしてしまう生徒への対応が課題となっている。

(6)学校教育自己診断を踏まえた学校経営計画の進捗状況<別紙資料>

- ・学校経営計画「本年度の取組内容及び自己評価」の中期中期目標「生徒の自信と自己実現を充実する」及び「工業教育の充実」についての考察を学校教育自己診断に基づいて行った。
- ・いずれの項目についても上昇傾向が見られる。

3.授業見学(14:30~14:55)

4.協議(学校側から、参考資料として、学校教育自己診断の診断項目別昨年度比の表を提示)

- ・学校教育自己診断の項目を累計に分類し、縦軸に生徒・保護者の回答を、横軸に教員の回答を肯定的意見の割合とともに表を作成した。生徒・保護者と教員の意識の違いをクロスポイントで考察してみた。(座長より資料提出)
- ・保護者によって考え方が異なる。私は、子供を工業に入学させて良かったと感じている。卒業した長男のときと比べてもいろいろな面においてより活発になっている。
- ・中学校では、基礎学力が付いているかいないかの判断は、生徒の考えと教員の考えとはほぼ同じと感じている。
- ・アンケートは、学力の低い生徒と平均点以上の生徒を分けて取るのも一つの方法ではないか。
- ・本校では、基礎学力向上のために今年度から時間を別にとって朝学を実施。定期考査で試験を実施し、成績不振者には考査後の放課後に補習を行っている。今のところ目に見えて効果はわからない。
- ・業者の診断テストを4月に行っている。自己診断アンケートは10月に実施するので、数字では

わかりにくいかもしれない。

- ・知識の評価だけでなく、意欲・関心の向上の部分も学力として大きいと考える。
- ・就職に関わって、どれぐらいの基礎学力が必要かアプローチすることが必要である。
- ・アンケートの分析より、生徒、保護者、教員の三者で基礎学力のとらえ方が異なる気がする。
- ・小中学校で、「いくらやっても子供は伸びない」というのは、指導がその子供に合っていないから、合っているかどうか重要である。
- ・堺工科の生徒に合った指導法を校内研修で積み重ねていくことが必要ではないか。そうすることで生徒の実体と先生方の感覚が縮まってくると思われる。
- ・中1ギャップがあるように、高1ギャップもある。さらに、いわゆる偏差値が高くない生徒にはより丁寧な授業の進め方や板書が必要である。得意・不得意を考えた授業改善に取り組むことが必要である。
- ・授業参観については、呼びかけを行い、特に初任者については研究授業を行っている。
- ・幅広い生徒を教えるのは難しい。新たな観点からの工夫が必要ではないか。
- ・工夫をしているが実体と異なるのは、工夫の食い違いである。工夫の仕方を変えることが必要である。
- ・生活指導についてのアンケート結果では、生徒、保護者は改善されていると感じているが、教員はまだまだ改善の余地があるというように両者の間にはギャップがある。
- ・遅刻が減ってきちんと登校してくることがまず第一だと考えられるが、就寝時間、食生活など総合的に考えると基本的な生活ができていないと判断できることもある。
- ・良くなってきていることは確かだが、教職員はここで留まることはできない。自発性といった点ではまだ欠けている。もっと上を目指していくべきだと我々教職員は考えて辛めのアンケートの回答になっていると考えられる。
- ・学校と家庭の生活習慣が一致していない。この1年を見ていて、家庭とやりとりに苦慮するケースがある。
- ・生徒は家庭で教育を受けきれしていない実感がしている。アンケートはおそらく母親が回答している。仕事にしても資格にしても父親の存在が大きいのではないだろうか。
- ・遅刻の改善や資格取得に取り組む生徒が増えてきたことは良い傾向である。そのことによって、新しい夢や自信を持ったりして、生活習慣の改善につながり、自分の生活の安定に貢献していると思われる。しかし、どこかで頭打ちがやってくるので、普段の授業の理解や友達とのコミュニケーションといったように、安心安全な学校生活を送ることが必要である。その点で、友達をつくるとき、言葉の力は大きい。小学校では、言葉で説明できるとケンカが減る。中学校では対教師暴力が減る。高校も同様と考えてよいのではないだろうか。生活の安定には自分の気持ちが落ち着くことが必要であり、それには良好な人間関係が必要であり、これには人と言葉を通して関わることが重要である。今の子供は、大人としゃべる機会が減ってきている。社会性、人との距離感、我慢すること、妥協すること、説得することを学ぶには、身近な大人との関わりが重要である。小中学校では、地域の人とその役割を一定果たすこともあるが、高校では難しいかもしれない。
- ・近隣に住んでいる私も親しみが出てきたと思うのだが、生徒達は最近挨拶やちょっとした会話ができるようになった。時間はかかるができるようになってきている。コミュニケーション力が生活習慣に関わってくる。徐々に良くなってきていると感じられるし、自分自身も励みができた。
- ・1年ごとの数字に一喜一憂してはならないが、来年のアンケート結果を楽しみにしたい。

5.閉会のあいさつ

- ・数字に踊らされてはいけないが、数字を見ながらその裏側も考えて行かなければならないと思う。
- ・今の生徒をみてどういう力をつけるべきなのか、保護者はどのような力がつくことを望んでいるのか、根本のところを考え直す必要がある。12/2に第1回進路希望調査の発表がある。
- ・来年の第3回協議会では次年度に向けてまたよろしく願いたい。

6.連絡事項

- ・12月17日(土)14時より堺市産業振興センターにおいて創立80周年式典を開催。その中のイベントとして線香のモザイクアートでギネスに挑戦。
- ・2月3日(金)に本校体育館で課題研究発表会を実施。

7.次回予定

- ・平成 29 年 2 月 9 日(木) 15:00~予定